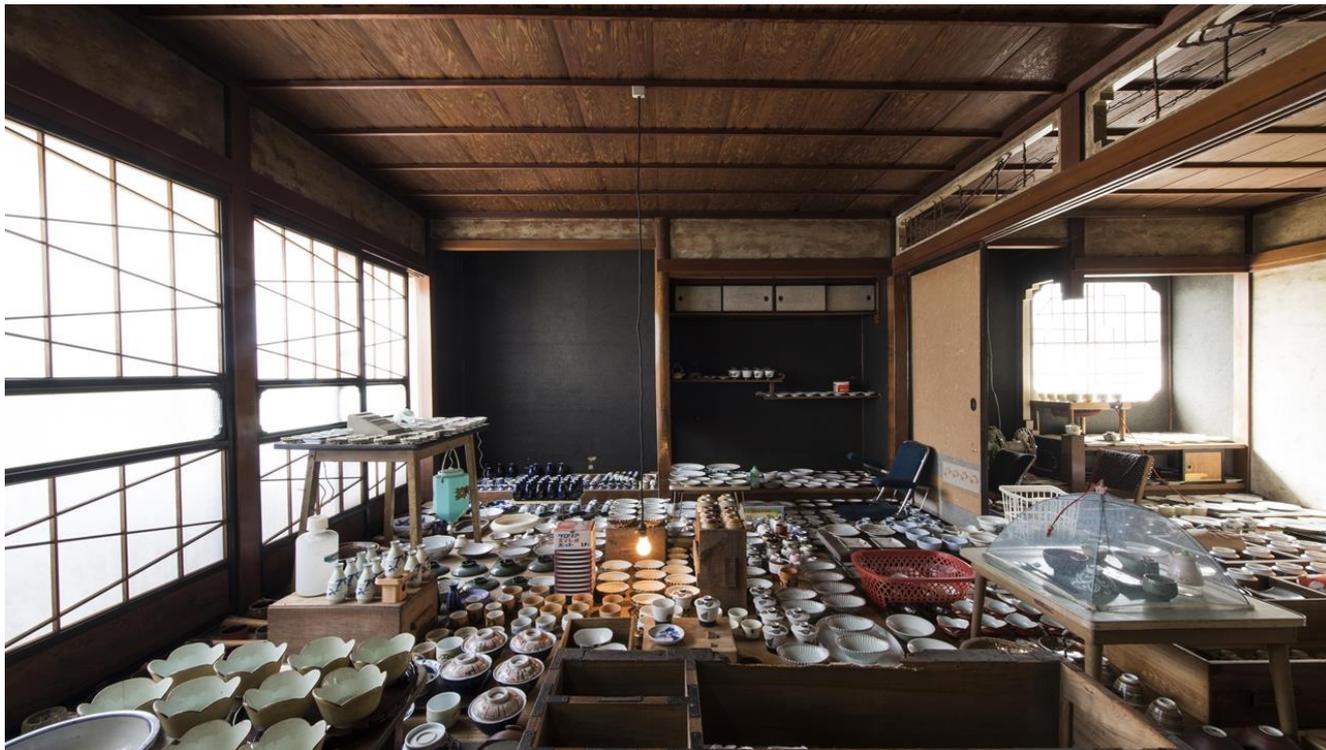
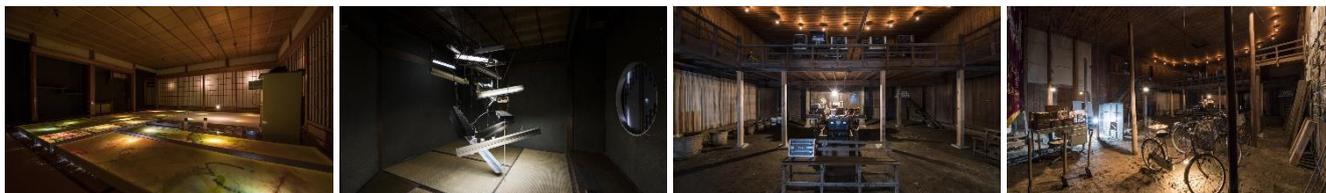


主催：月瀉アートプロジェクト実行委員会



旧料亭・きむら屋、旧映画館・月瀉劇場での空間インスタレーション作品



地域の魅力発見に、現代アートが大いに役立つ

美術作家・鈴木泰人、建築家・本間智美の2人によって組織された現代芸術活動ユニットOBIを中心に、旧料亭・きむら屋、旧映画館・月瀉劇場での空間インスタレーション作品を制作した。きむら屋2階の『灯りの間』の作品を見た方から、「かつての月瀉のまつりを見ているようだ」という人もいたり、記憶を言葉として引き出せていた。また写真とモノと一緒に展示した『月語り写真展』『記憶の間』は、写真だけ、モノだけ、よりも、同時に見ることで当時にリアルに感じることができ、想像力をかきたてる展示となった。劇場はタイムスリップするような追体験を促す物語性の強い展示となった。

OBIによる作品制作のプロセスによって、地域住民の会話を引き出し、普段意識していないことを自ら言葉にすることで、自己認識に繋げることとなった。その成果は、これまで月瀉をけん引してきた役職の人たち

はもちろんのこと、普段まちづくりに参加していない若者の感情も引き出すこととなり、プロジェクトに関わる人々を増やすことができた。月瀉の各団体と連携をとることができ、広報や制作にもご協力いただき、成果目標としていた地域全体との連携、活性化（経済・コミュニティ）が生まれた。

今後の課題は、実際に地域外から足を運んでいただいた方々に、どうお金を落としていってもらおうかということもふまえて「芸能のまち・月瀉」としてのブランディングの仕方を地域住民と共に考え、実行していきたい。そして、ブランディングをするうえでの、地域の魅力発見に、アートが大いに役立ったという感触を得た。今後、各団体との連携を、月瀉全体としてとらえて、観光誘客に繋がる活動へとステップアップさせていく。

- 5月14日(月)～7月8日(日) 作品制作 (旧料亭・きむら屋、旧映画館・月瀉劇場)
- 6月23日(土)～6月24日(日) 月語り写真展 (旧料亭・きむら屋)
- 7月14日(土)～10月8日(月・祝) 作品公開 (旧料亭・きむら屋、旧映画館・月瀉劇場) 他1件

主催：月瀉アートプロジェクト実行委員会



インスタレーション、OBI 或いは地元ボランティアのガイドツアー形式での展示

冷像庫

2018年7月14日(土)～10月8日(日・祝)15:00～20:00

月瀉劇場（新潟県新潟市南区）

784名（旧料亭・きむら屋と合算）

月瀉地区に現存する住民にも認知されない劇場が作家の取材と会話の中から偶然見つけ出された。その空間は、当時の活気ある映画館の痕跡を2台の映写機と多くのフィルムと共に残されており、閉鎖後は木材置き場として、更にその後は周辺住民の荷物置き場として、時代の過程を荷物として層を重ねて静かに保存されていた。

初めて足を踏み入れた時に感じたカビ臭くも冷えて湿った空間が、良くも悪くも劇場を延命させていると感じさせる。そして、縁もゆかりもない私たちには、見えない筈の当時の映像が映し出される錯覚を劇場を知る方々との出会い重ねていく内に感じられることが、ツアー形式の展示作品のコンセプトとなった。劇場のみならず町にある文化を見直すきっかけになればと提案をさせて頂いた。

主催：月瀉アートプロジェクト実行委員会



月の夜を見る

月の夜を見る・記憶の間(月語り写真展のアーカイブ展示)

2018年7月14日(土)～10月8日(日・祝)15:00～20:00

月瀉劇場（新潟県新潟市南区）

784名（旧料亭・きむら屋と合算）

2017年より地域の課題解決のためのコミュニケーションの場づくりをきっかけに、かつて芸妓で賑わった元料亭の空き家まるごと作品にすることを始める。作品を通して会話をを行い、住民の時間の流れと居場所を確認しながら、2018年の水と土の芸術祭の出展作品へと繋げて行く。

2017年の<語らいの間>は、会話の内容を引き出すための作品で、実際に歩いた町の形を地図の様に見立てた。結果的に月瀉劇場(映画館)を見つける事となり、2018年の<月の夜を見る>は、その会話の流れを踏まえた上で入口から出口までの物語をきむらやに在る物を軸に形を起こして行った。